

学校教育目標



須和田が丘

夢 に向かっていく生徒
命 を大切に作る生徒
絆 を互いに深め合う生徒

令和4年度
学校だより No. 14
令和4年6月30日

市川市立第二中学校
校長 石田 清彦

ホームページ <http://www.dai2-tyu.ichikawa-school.ed.jp/>

単元テストについて

単元テストが始まって、1か月余りが経ちました。ご家庭では、単元テストについてどのような話が出ていますでしょうか。

テストは、生徒にとっても教員にとっても、「学力が定着しているかどうか」を確かめるためのものであり、その結果を学習や指導に生かしていくことが重要です。

評価のための評価（テスト）ではなく、次の学習や指導のための評価（テスト）として、生徒一人一人が「主体的に学ぶ力」を高めていくことができると考えています。

単元テストについては、「テスト範囲が短いので勉強しやすい」「範囲がちょっとずつなので良い」といった声が聞かれており、今までは全ての設問に回答できなかった生徒も、全てを埋めようとする姿が見られているそうです。また、隙間時間に勉強している姿もよく見られるようになり、学習した内容について勉強しようとする意識が高まっているようです。

一方、自分でスケジュール管理ができず、見通しを持つことができない生徒や、自分で学習計画を立てられない生徒は、結果も思わしくない様子が見られています。見通しが持てず、「もうテストか」と思いながら毎週の単元テストがあつという間に進んでしまっている生徒は、上手に勉強時間を作り出すことができず、勉強をする生徒としない生徒に分かれてしまっている様子も見られます。

しかし、単元テストが習慣化されてくれば、計画的に学習する力も高まってくると思います。また、単元テストの結果がダイレクトに成績に反映されてくると、「やばい。勉強しなければ！」となるかも知れません。生徒一人一人の見通しを持った取組に期待しています。

また教員にとっても、単元テストは、「早めに何が出来て、何ができないのかが分かってよかった。」「一人一人の学力に分けた対応ができる」などの効果が見られていますが、回数が多く、定期テストのような採点期間もない中で、テストの作成と採点で忙しいといった声も聞かれています。確かに教員の採点する姿が多く見られるようになり、ICT化も含めた対応を急がなければなりません。

また、毎週テストがあるので、単元テストを休んだ生徒への対応も、設定時間等で難しくなっている面もあります。

今後はこれらの課題を改善し、生徒一人一人に、「主体的に学習に取り組む力」を高めていけるよう、より良い形に向けて、検討を進めてまいります。

単元テストの実施日等は、学年だよりに示されていますので、保護者に皆様におかれましては、子供たちへの声掛け等について、ご協力をいただきますようお願いいたします。

熱中症対策について

6月27日に関東甲信地方の梅雨明けが発表され、梅雨の期間は史上最短を更新しました。また、6月27日には熱中症警戒アラートが発表され、熱中症の危険性が極めて高い状態になるなど、盛夏の時期が心配になります。

学校では、空調機器を適切に使用して熱中症対策に努めておりますが、空調が設置されていない屋内外での運動や活動等につきましても、中止や延期等を含めて、適切に対応してまいりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

またマスクにつきましては、運動時や登下校時、休み時間を屋外で過ごす場合などは、着ける必要がないことを指導していますが、今週は、登校時から調子の悪い生徒も見られていますことから、「学校だよりNo.12」を参考にして、ご家庭でも登下校時を含めたマスクの着脱について、ご指導くださいますようお願いいたします。

保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。